

ひとりごと

将来の夢

今でも「将来の夢」とは何かと時々考える。

私は、高校時代に美術部で、油絵を描くことが好きだけれど画家になるのは難しいと思ったので、1番現実的かつ絵に近そうな県立美術館の職員になろうと県職員の採用試験を受験した。異動希望面談の度にアピールするも未だにその夢は叶っていないのだが、途中で学芸員に転職しようか悩んだこともあり、本当の「将来の夢」とは何かと考えたことがあった。当時は、才能や収入などを全く考慮せず、某ゲームのように神殿で何にでも転職させてもらえる…となった時になりたいものが本当の将来の夢なのではないかと自分なりに行きついた。しかし本当に何でもいいなら画家以外でもいいかも…ということに気づいたので、高校時代に絵に1番近そうという理由で志望していた美術館勤務を今でも諦められないのはもはや意地なのかかもしれないのだが…。ただ美術館自体は好きなのでいつかは経験してみたい部署のひとつであることは変わっていない。

美術館以外の部署で働きながらも時々ではあるが絵を描いていて、コンクールに絵を出品していた時期もあった。締切が近くなると平日仕事が終わってから夜に絵を描いていたこともあり、日中の仕事を副業で夜絵を描くことを本業と思い込めば画家の卵的な気分を味わえるのでは?と閃き試みていたことが一瞬あった。これは我ながら画期的でまさに転職した気分にはなれたが、絵は描きたい時に描きたいものを描くのがよいのであって、毎日描き続けることの辛さに気づかされた。よほどの売れっ子以外は注文に応じて絵を描かないといけないこともあると思うし、毎日納期に追われながら描きたくもない絵を描き続けることは厳しいなと思い、絵を仕事にすること(していないけど)の難しさを感じた私は、絵はやはり趣味に留めておくのがよいという結論に至った。

そんな自称画家の卵を経て、今でも美術館勤務は諦めていないが絵はただの趣味となった私が文科省で今この記事を書いている。正直、この記事の存在さえ知らず、教育委員会月報が電子化されていたこともさっき知ったのだけれど(本当にすみません、今後は一生愛読します)、いつか美術館に異動した私がこの記事を読み返して、高校時代の夢が叶ったか答え合わせをしたい。

最後になりましたが、私の派遣元の県教委の皆さん、文科省に勤務するという貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。あと最後の最後に本当に私の「ひとりごと」ですが…退職するまでに一度でいいので、いつか美術館に異動させてください!

(S.I)